

第3学年 国語科学習指導案

公開 / 児童 3年2組 男20名 女18名 計38名

指導者 T1 中里 恵子

T2 松田 哲也

1 単元名 分かりやすく書いて説明しよう

2 教材名 せつ明書を作ろう

3 単元について

(1) 指導の重点

第3、4学年の書くことの指導の目標は、「相手や目的に応じ、調べたことが伝わるように、段落相互の関係などを工夫して書くことができるようにする。」である。

これを受けて、本単元では、「自分が得意なことについて分かりやすく説明する文章を書き、友達に伝える」ことをねらいとしている。自分で説明書を読んで、できるようになったこと、他の人に教えられてできるようになったこと、自分で練習してできるようになったことの中から題材を選び、まだできない人に分かりやすく説明するために説明書を作ることが目的である。

そこで、この単元では「分かりやすく書く」ということの工夫として、段落のまとまりを意識することを指導の重点とする。そのためにも、常に相手意識・目的意識を持たせながら、作文活動に取り組みさせていきたい。また、横書きで書く文章が初めてなので、ここで横書きの表記の仕方を理解させたい。

(2) 児童の実態

1学期の学習「ありの行列」で、書いていることの意味をしながら、説明文を読み取ることの大切さを学習した。それをうけて、作文単元「知っている場所を教えます」では、自分の教えたい場所について、書きたいことの意味を意識して、作文活動に取り組むことができた。

また、児童は日常の日記や朝学習などの取り組みで、書く活動を継続してきている。内容を見ると、時間の順序に沿って長い文章を書くことができるようになってきている。しかし、ただ思いのままに書いて、何を伝えたかったのかははっきりしない文章になっている場合が多い。それは、作文を書くときに相手や目的を意識して書くことがまだ定着していないからである。そのため、段落に分けられない児童、どこで分けていいかわからない児童など段落意識に対して個人差が大きい。

(3) 教材観・指導観

この単元では、「わかりやすい説明書を書く」には何が大切なのかを考えさせることで、書く作業に取り組ませていきたい。そして、段落に分けて書くことが、読み手に分かりやすく伝えるための工夫であることに気づかせたい。また、「書く」という能力だけでなく自分を見つめ直し、自分にできることを、友だちに知らせることを通して、自分の個性を伸ばし、集団の中で自分のいる位置をつくりあげていく体験をさせたい。

「理解」段階では、わたしの自慢大会を開き、自分の得意なことは何かを発表する。そして、自分の得意なことを説明書にし友達へ伝えることの必要感を考えさせ、書く意欲へとつなげたい。また、教材の説明書を、ていねいに読ませたい。特に、目次と1つ1つの内容が対応していることを確かめ、細かいステップの配慮のよさに気づかせることでまとまり意識を持たせたい。

「取材・構成」段階では、相手意識をしっかりと持たせて作業を進ませる。まず、標題を決め、小見出しを作らせる。自分でしたときのことをよく思い出させながら、相手が分かりやすいようにまとまりごとに区切り、小見出しをたてる。それらが、単なる時間的順序に従うだけではなく、どの順序で並べて説明すれば、相手に分かりやすいかを判断させたい。

「記述」では、教科書の例を参考にして、取材で集めた事柄をもとに、作文を書かせたい。その際、1つの目次が1つの段落になっていることを確認し、まとまり意識を持たせる。読んだだけで初めての人ができるのかを確かめるようにさせ、読み直しをさせながら書かせたい。

この単元の指導は、T1が授業を進め、T2が支援にまわり、一人一人が分かりやすい文章を書くことができるようにしていきたい。また、役割分担を明らかにし、一人一人の学習状況を把握して指導に生かしていきたい。

4 単元の目標

自分が得意なことについて分かりやすく説明する文章を書き、友達に伝える。

【関心・意欲・態度】

- ・説明しようとする事柄を思い起こして、読み手によくわかるように、工夫しながら説明書を作ろうとする。

【話す・聞く力】

- ・自分が説明しようとする事柄について読み手の立場にある友だちの意見を聞き、自分の考えとの相違点を考える。

【書く力】

- ・大切なことを明確にしながら、段落と段落の続き方に注意して書く。
- ・説明書を読みあって、文章のいいところを見つけたり、間違いなどを正したりする。

【読む力】

- ・教材として取り上げられている文章例を、その構成や内容に注意しながら読む。

【言語の力】

- ・句読点を適切に打ち、また、段落の始めなどの必要な箇所は行を改めて書く。
- ・文章全体における段落の役割を理解する。

5 単元の指導計画・評価計画（13時間）

段階	時間	指導目標	学習内容	評価規準
理解	4	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の得意なことを発表する。 ・説明書を読むとともに、その特徴を話し合う。 ・教科書を読み、学習の見通しを持つ。 ・教材文を読み、わかりやすく説明する工夫に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験を振り返り、自分の得意なことについて話し合う。 ・単元のねらいを知り、学習計画の見通しを持つ。 ・教材文を読み、構成の方法を学び、分かったことについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 関説明書を作る意欲を持つことができる。 読教材として取り上げられている文章例を、その構成や内容に注意しながら読むことができる。
取材 構成	3 本時 2 / 3	<ul style="list-style-type: none"> ・「何を、だれに、何のために」書くのか考え、表題を決定する。 ・小見出しを決定する。 ・小見出しに沿って、必要なことを思い出し、書く内容を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の題材を決定する。 ・標題を決定し、小見出しを作る。 ・小見出しごとに書く材料を選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 関自分の教えたい内容をはっきりさせることができる。 書知らせたい事柄を集めて、小見出しをし作ることができる。 言習った漢字を適切に使って書くことができる。 書内容のまとまりを文章に書き表す順番にならべることができる。
記述	3	<ul style="list-style-type: none"> ・小見出しに従って、説明書を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目次と前書きの部分を記述する。 ・説明書の前半部分を記述する。 ・説明書の後半部分を記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> 書大切なことを明確にしながら、段落と段落の続き方に注意して書くことができる。 言句読点を打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くことができる。
推敲 評価	3	<ul style="list-style-type: none"> ・友達からの意見を参考に、書き直す。 ・清書し、説明書を仕上げる。 ・友達の書いた説明書を実践し、いいところや改善点を探す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書いたものを自分で読み直し分かりやすいように書き直す。 ・友だちの文章のよいところを探す。 	<ul style="list-style-type: none"> 書書いた文章を読み返し、分かりやすい文章になるよう推敲することができる。 言句読点の打ち方や改行のしかたの間違いを直している。 読友達の書いた作品のよさを探しながら読むことができる。

6 本時の指導(2組 取材)

(1) 指導目標と評価規準・支援

指導目標	評価規準	具体的評価規準		努力を要すると判断される児童への支援
		おおむね満足できる(B)	十分満足できる(A)	
相手がわかりやすいようまとまりごとに区切り、小見出しを作る。	【書く力】 自分がしたときのことをよく思い出し、まとまりを意識して目次を作っている。	・まとまりを意識して小見出しを作っている。	・まとまりを意識して、読み手に分かりやすいよう小見出しを作っている。	・自分のしたことや必要なことをメモに書かせ、大切なことを選ばせたり、順番に並べ替えさせたりする。

(2) 指導にあたって

中学年のつけさせたい取材の能力は、「書く必要のある事柄の順序や軽重を考え整理して書くことができる」である。本時では、取材活動として、説明書を書くために必要なことを思い出させる。そして、相手が分かりやすいようにまとまりごとに、小見出しを作らせる。読み手に分かりやすいまとまりごとに、区切るためにも、だれを想定して書くのかといった、相手意識をしっかり持たせる。また、題材や読み手によっても区切り方が変わってくるので机間指導で個に応じた支援をしていく必要がある。

この単元の指導は、T1が授業を進め、T2が支援にまわり、一人一人が工夫してわかりやすい文章を書くようにしていきたい。T2は、課題把握、発表、ふりかえりの場面で努力を要する児童に対し、支援にあたる。また、実作では、役割分担を明らかにして進める。机間指導の前半では、T1、T2それぞれ、分担した児童の指導をする。(T1 1、2号車、T2 3、4号車)また、机指導間後半は、T2が主に努力を要するとする児童の支援にあたり、T1が個々の学習状況を把握し発表へとつなげる児童への支援にあたりたい。T1、T2ともに相互に連携をしながら指導にいかしていきたい。

(3) 展開

段階	学習過程	学習活動	支援 指導上の留意点・評価【 】	
			T1	T2
導入 5分	課題把握	1 前時の学習をふりかえる。 2 本時の学習課題を把握する。 自分がしたことをまとまりに分けて、小見出しを作ろう。 ・教材文である説明書、小見出し例を見る。	・分かりやすい説明文を書くために、小見出しごとの段落に分けられた作文を書くことを確認する。 ・目次1つ1つが、小見出しとなっていること、文章の1つのまとまりをあらわしていることを確認する。 児童が課題を把握しているか確認する。	課題を黒板に掲示する。

展開	課題の追究 方法の 理解	3 小見出しを作るための方法を考える。 (1) 教科書の例から小見出しの書き方を考える。 ・ 小見出しのよさや小見出しの作り方について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1つの文章を1文であらわしている。 ・ 短く簡単な文で分かりやすく書く。 <p>小見出しを書く 黒板にポイント ポイントを説明 板書を説明する。 する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目次を作りながら思い出した詳しい内容は、簡単にメモしておき、記述へとつなげるよう指示する。
	実作	(2) 小見出しを書く。 自分の題材を確認し、だれに、何を伝えるために書くのか確認する。 順番を考えながら目次を作り、付箋紙に記入していく。 自分の目次を見直す。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手意識・目的意識をもたせ、そのために必要なことを考えながら目次を作らせる。 <p>机間指導 机間指導 (それぞれ自分の担当の児童の学習状況を把握し、支援にあたる。)</p> <p>なかなか書き出せない児童には、そのときしたことをメモさせ、個別に指導する。 早く終わった子は、目次にそって、必要なことをメモしていくように指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 重複した内容のものやぬけている小見出しがないか確認させる。
35分	発表	4 書いた目次を発表する。 ・ 友だちの発表を聞き、よいところを探させる。 ・ 自分の小見出しをふり返る。	<p>【書く力】 自分がしたときのことをよく思い出し、まとまりを意識して小見出しを作っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手に分かりやすい区切り方になっているかなど視点を与える。 ・ 友達の小見出しを見て、自分の小見出しにたりないものはないか見直させる。
終末 5分	まとめる	5 本時の学習をふり返る。 ・ 自己評価をする。 次時の学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価カードに記入させる。 ・ 次時は、小見出しに従って説明書を書くことを知らせる。